

「辺野古新基地工事中止・名護市長選挙勝利」沖縄行動(報告)

11月28日～30日、安保破棄中央実行委員会と全国革新懇による「辺野古新基地工事中止・名護市長選挙勝利」沖縄行動に近畿から7名(内大阪から4名)参加しました。

28日は辺野古に向かい、埋め立てのための土砂が搬入されるゲート前での座り込み行動を行いました。29日は名護市長選挙勝利の街頭宣伝や「集い」が行われ、30日は那覇市で「学習・討論」が行われました。



「名護市長選挙勝利に向けた集い」

名護市長選へ風を吹かす宣伝行動

29日の午前中は、名護市の市街地での宣伝行動に参加しました。

沖縄県統一連の名護市長選事務所に集まった私たちは、統一連の瀬長さんから説明を受けた後8隊に分かれ、市街地全域での宣伝を行いました。大阪の4人は、大南という地域を担当し、約2時間で16回のスポット宣伝を行い、翁長クミコさんへの支持を訴えました。

この宣伝行動は、今回の市長選挙に向けて初めての市内全域での宣伝となり、市長選挙に向けての風を吹かすとりくみとなりました。



翁長クミコ名護市長予定候補

新婦人名護支部、名護市平和委員会など地元の皆さんも参加され、玉城デニー知事と共に当日行われ

ていた「名護まつり」での挨拶を終えた翁長クミコ名護市長選予定候補が駆け付け、市長選を戦うにあたって「辺野古新基地反対を貫き、市民のくらしを守る」と決意を語り、「名護市長選挙は名護だけの戦いではなく、沖縄全体で、そして日本全体で考えてほしい。全国からお集まりの皆さんのお力をお借りして、この選挙、ぜひ勝たせてください」と力強く訴えられました。

辺野古新基地建設反対を貫き 市民のくらしを守る



稲嶺進元名護市長
(翁長候補後援会長)

この日の午後、市内の大北公民館で開催された沖縄県統一連・安保破棄中央実行委員会・全国革新懇の主催で行われた集いには、稲嶺進前名護市長(翁長候補後援会長)、山里将雄沖縄県議、吉井俊平名護市議、

戦争させない・いのちとくらしを 守る政治こそが、市民のための政治

集いの挨拶に立った沖縄県統一連代表幹事の新垣繁信さんは、まだ復帰前の1970年に沖縄で行われた戦後初の国政選挙において、瀬長亀次郎さんと共に戦った当時を振り返りながら、「瀬長の二つの目をつぶすことはできるだろう。だが、160万のらんらんと輝いている目の監視から逃れることはできない」という言葉を紹介され、「もう戦争が始まっているような沖縄において、全国の皆さんと団結して戦い、名護市長選に勝利することが辺野古のたたかいを前進させる大きな力となる」と訴えられました。



それに応じて、全労連副議長の清岡弘一さんは「高市政権は『台湾有事』で煽りながら軍備を増強し、生活にはがまんを強いる。なかでも最大の犠牲を沖縄の人たちが払っている。アメリカ言いなりの政府、その政府言いなりの市長を続けさせるわけにはいかない。名護市長選を契機に反撃しよう」と戦う決意を表明し、翁長さんに激布を贈呈されました。



「沖縄のたたかいをめぐる学習と参加者交流」

記憶せよ、抗議せよ、そして生き延びよ

30日は、那覇市の青年会館で学習と討論が行われました。

沖縄革新懇代表の仲山忠克さんから、「戦争国家」づくりが進められようとしている今こそ、戦争の実相を直視し、それを記憶し、抵抗し、抗議する。日米安保条約への賛否を問わず、新たな戦争を阻止するという一点で国民意識をつくるのが重要だとの訴えがされました。

「自衛隊及び隊員とその家族に対する差別的な風潮を改め、県民に理解と協力を求める決議」とは

日本共産党沖縄県議の比嘉みずきさんは、県議会において、なぜ「決議」が採択されることとなったかに言及し、いま、自衛隊に対する批判をしてはいけないという「空気」がつくられてきていると報告。また、軍事に対する権限しかない米軍の憲兵隊が、沖縄市で単独パトロールを実施し、民間人を誤認逮捕までした問題を取り上げ、「主権」に係わる問題だと指摘されました。



「主権者」として抵抗する 大きなカタマリをつくろう

沖縄県統一連事務局長の瀬長和男さんから、辺野古のたたかいについての詳しい分析報告がされ、かつて1960年代に米軍が辺野古に造ろうとしながら実現できなかった「出撃基地」が、いま、日本政府によって国民の税金を使って造られようとしているのではないかとことも語られました。

そして、莫大な額の税金を使って辺野古に米軍の新基地が造られようとしていることに対して、国民一人ひとりが「主権者」として声を上げ、抵抗する大きなカタマリをつくことが求められると訴えられました。

圧政は、支配される側の自発的な 隷従によって永続する

最後に、仲山さんは16世紀フランスの思想家の言葉を引用し、先述の「決議」や「空気」への警戒と共に、逆に言うならば「民衆が従属しなければ、圧政は完成しない！」と強調され、時代の分岐点と言われる今こそ、私たちの生き方が問われていると、参加者を励まされました。

共にがんばりましょう。

守山禎三

